

KSKQ

エヌピーオー

NPOちゅうぶ 通信

2025年12月号・2026年1月号



きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ だいひょうりじ 旧年の振り返り・新年の抱負(代表理事)
きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ じ むきょくちょう 旧年の振り返り・新年の抱負(事務局長)
きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ あか あお 旧年の振り返り・新年の抱負(赤おに青おに)
きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ 旧年の振り返り・新年の抱負(リオ)
きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ 旧年の振り返り・新年の抱負(ナビ)
きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ 旧年の振り返り・新年の抱負(すべて)
きゅうねん ふ かえ しんねん ほ うふ そ うむ ぶ 旧年の振り返り・新年の抱負(総務部)
おおさかし こうじょう ほ うこく 大阪市オールラウンド交渉 報告
きょうしつ はじ とも い しゃかい あずまよし み 教室から始まる共に生きる社会 東佳実

ほんき すす 本気で進めよう脱施設 D P I 政策集会
えどがわ こうりゅうかい すべての江戸川との交流会
てん たいかい 天ぷら大会をしました
ほうねんかい お はく ちゅうぶ忘年会 テーマは推し博
あか あお ハーベキュー かいさい 赤おに 青おに B B Q レク開催
マノスタグラム
きどみちお へや 木戸通雄の部屋
きょうりょくかいひ 協力会費 カンパ
へんしゅうこうき 編集後記

ぜんこく なかま 全国の仲間とつながって

きょういく だつしせつ すいしん インクルーシフ教育・脱施設を推進しよう！！

だいひょうり じ おのうえ こうじ
代表理事 尾上 浩二

■学校バリアフリー計画100%の実現を

2025年前半は、文部科学省の学校バリアフリー検討会の対応に迫われました。

大阪市では1990年代から地域の学校もバリアフリー化の対象になっていて、ほとんどの小中学校にはエレベーターが設置されています。しかし、全国的には大きく遅れています。災害の度に、「消えた障害者」と言われるよう、障害者は避難所生活すら送ることができない状態が続いています。2020年から公立の小中学校はバリアフリー法での義務化の対象になりましたが、一部の自治体を除いて改善は進みませんでした。学校のバリアフリー化計画をつくっている自治体は2割に止まっています。そのため、障害のある子が入学時にエレベーター設置を求めて応じてくれないといったことが続いていました。昨年1月から検討会が始まり、6月まで議論が続きました。中には「キャタピラー式昇降機の使用を認めるべき」といった意見もありましたが、最終的に「垂直移動の基本はエレベーター」ということが確認されました。さらに、2030年度までに学校バリアフリー計画の策定自治体を100%にする目標も定められました。また、聴覚障害者向けのヒアリングループなどもガイドラインに記されました。インクルーシフ教育のための環境整備として、学校バリアフリーを進めていくことが求められます。



■大きく変わるまちを体験した梅田おにごっこ

10月には、「梅田おにごっこ」を開催することができました。雨天にも関わらず350名の参加を得ました。ウォークラリーを楽しみながら、大規模再開発が進む大阪駅周辺を再発見する機会になりました。

これまで大変だった大阪駅の南北の横断も、西口側はだいぶ楽になったと実感しました。しかし、新しいビルでも黒い壁にグレイ色のエレベーター表示で分かりにくなどの問題点も浮き彫りになりました。大阪府まちづくり条例・ガイドライン改正がテーマになっています。万博のガイドラインが反映され、レガシーとして残していくことが重要です。

■全国の仲間とつながり脱施設・インクルーシフ教育を

昨年3月には「合理的配慮キャラバン・鈴音が行く」の中曾根鈴音さんにちゅうぶに来てもらって、聴覚障害者の情報保障への取り組みについて一緒に考えました。また、9月には別府に全国各地から仲間が集まり、自立生活運動の今後を考えるサミットが開催されました。特に、トランプ政権下での障害者の地域生活の危機に対して必死に闘いを繰り広げているアメリカからの報告は衝撃的でした。



排除的な雰囲気が強まる中、団体の枠を超えて色々な人とつながっていくことがますます重要な時代になっています。全国の仲間とのつながり・共同を大切にして、脱施設・インクルーシフ教育を進めいく一年にしていきましょう。

2025年「日に日に世界が悪くなる…」

じ む きょくちょう いしだよしのり
事務局長 石田義典



毎朝、NHKの朝ドラでテレビから流れてくる。「日に日に世界が悪くなる 気の
せいか そうじゃない…」 ハンバートハンバートが歌う「笑ったり転んだり」の2番。こんな歌詞、大丈夫
か。でも、今の世界と日本の雰囲気を反映している気がする。世界は2020年から新型コロナもあって人
と人の関係も弱くなり、ウクライナとロシアの戦争も終わらない、各地での紛争は続き、多くの国が内向き
に、自分ファーストになり、独裁的な国家はむしろ強固になってるように見える。ネットニュースも毎日トラ
ンプがらみが多いが、ハラスマント発言だらけでともて大統領とは思えない。過激であればあるほど人気
が出てきたが、そういうまでも続かない気もする。障害者関係では国でも障害福祉予算では20年で約
4倍になり、介護保険の3分の1近くとなってきた。特に大阪では障害福祉事業所が急増している。中でも
就労継続A型・B型、グループホームは数だけでなく、制度を悪用して大儲けする営利企業の参入が止
まらない。コンサルがバックにいて書類の準備はできているが、障害者支援の実態が「無い」事業所の話
があちこちで聞こえてくる。多くは診断書を使って「作られた障害者」だったり、在宅就労として利用者が
14都府県にまたがるなど、私たちの想像を超えている。国からも悪い意味で目を付けられ総量規制の
話も出ている。

大阪では夢洲で万博が開催。当初の悪評を覆し、来場者が目標を越えた。バリアフリーもギリギリの
タイミングで障害者の意見を聞く場を作ったので、なんとかマシなものにはなった。夢洲駅のエレベーター
が1基しかなかったのが一番残念。でも工事費の未払いだけは何とかしてほしい。国事業なのだから。

10月には梅田おにごっこ開催。A I やラインも活用し、グラングリーン周辺、スカイビルを使っての新たな取り組みにたくさん的人が参加してもらいました。

2026年。まちを耕す！



障害者の自立生活にとって自由な外出は大きな一步！

コロナで止まった外出。車での送迎サービスもあり、まちに出る障害者はあまり増えていない。改めてま
ちに出る、まちで遊ぶ、小規模店舗の調査やバリアフリー化も進める。いろんな人との共同で「まちを耕
す」取り組みを進めたい。梅田おにごっここの成果も生かして、2026年はなんばおにごっこ！
また障害福祉サービス自体は増えていても、地域移行は進まないし、入所施設は減っていない。分離
教育はますます強く成っている。地域間格差は大きいし、障害者の自立が進んでいるとは言えない現実
が続く。改めて脱施設の大きなうねりをどう起こすか。行政や施設も巻き込んで脱施設取り組みをダイ
ナミックに進めるお隣の韓国にも学びたい。

NPOちゅうぶは1984年スタート。40年をこえたが、星の数ほどの事業所がある中での存在意義は何
なのか、私たちが果たせる役割は何なのかを考えたい。全国には元気な障害者団体もたくさんある。い
ろんな団体と交流し、学ぶ、良いところを盗むことも大切。そうやってちゅうぶはここまで来た。
個人的には、2月に痛めた膝の回復とマラソン復活！じわじわ進む緑内障を抱えながら目の健康と
「高齢者」をいかに楽しむか。まだまだ頑張ります！！

つうしょ ねんどふかえ ねんむ
通所2025年度振り返り・2026年に向けて、
かくかつどう とど
各活動チームからのメッセージをお届けします☆

かくかつどうほうこく
◎チーム活動報告

ミニアクセスクラブ

今年のミニアクセスは新メンバーに島袋さんが加わりました!天王寺の初詣から始まって、長谷川くんが好きで、NHKの近くにオープンした「なのにわ」や、長居公園の「ローズマリー」や、「行ったこと無い駅に行ってみよう」シリーズで高井田駅に行きました!今年は暑い日が多くたから、室内で映画観たりボッチャやゲームとかもやりました。

メンバーが多いけど来年もみんなで行きたい場所とか相談しながら、みんなで楽しく活動して行きます!オススメのスポットや飲食店があればミニアクセスメンバーに教えて下さい!

してんのうじ はつ
四天王寺で初もうで!



「なのにわ」にてわになる



あるは ひのてんしば



ミヤクミヤクとオニたち

販売チーム

今年もおにコーヒーとか、お買い上げありがとうございます！

今年は逢坂さんの水出しコーヒーが大好評でした！新しいコーヒーミルも買って、味も美味しいなったかも（笑）

おにストアでも、オートミールやレモンスカッシュ、塩アメなども仕入れました。おにわ＆ナビの営業では色々な人とトークが出来て良かったです。みんなもオートミール試しに買ってみてください！

来年こそは、販売チームでレクをしたいです。

コーヒーに詳しい濱田さんはCIL星空に行ったけど、これからも販売チームは働いて働いて働いて働いて働いて働いてまいります。



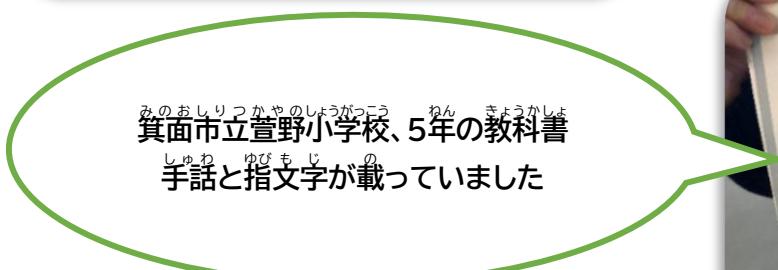
学校交流チーム

昨年同様、これまでの取り組みも継続しつつ、特別支援学校との繋がりを深めることを意識しました。東住吉支援学校では中1生徒の実習受け入れ。平野支援学校では高等部生徒対象に『卒業後の進路について』というテーマで講演会を行いました。

来年も『偶然から必然』に変えるために、若いうちから自立生活や制度のことをイメージできるシステムを構築ていきたいと思っています。



おおさかしりついくわしょうがっこう
大阪市立育和小学校で
しゅわたいけんじゅぎょう
手話体験授業



手作業チーム

2025年は手作業チームのみんなで企画をすることが多かった年でした。そうめん企画やキンパ企画などをして、楽しんだ年でした。

2026年もみんなで楽しめる企画をできたらいいなと思います。

今年も色々な販売活動に参加しました。

写真は童夢KANSAIの時の移動

販売をした写真で、フェスや販売会で全体的に商品がどんどん売れていく様子を見ることができて楽しかったです。

童夢KANSAIで移動販売するとたくさん売れたのが嬉しかったので、今後も販売会参加の時は移動販売を続けて行きたいと思いました！



段差戦隊ジメンジャー

2025年の段差戦隊ジメンジャーは、他団体との交流会を2回しました。実際に街のバリアフリー調査をしたり、Zoomを活用してお互いの活動を共有できました。

2026年には大阪市交通バリアフリー基本構想で駒川中野地区の議論がスタートします。歩道（縁石）の問題だけではなく、いろいろな課題をみつけて改善できるように行政と話し合い、誰もが住みやすい街になるように活動していきたいです。



チームルーフ

秋原さんたちとバーベキューをして楽しかったです。特に肉と野菜が美味しかったです。ほうれん草もみんなと一緒に植えて楽しかったです。また私が通所に復帰したら、水やりをしたいです。今は寒いので止めてると思うけど、また暖かくなったら、みんなで菜園を再開したいです。（増永）



◎通所の新人さんからひと言

☆青おに 島袋愛子さん

今年の一月から作業所に通い始めました。自立後の生活の困りごとを先輩障害者に直接相談させて頂けた事はとても有り難かったです。活動を通して、活動エリアの拡大や、調理企画等、作業所での活動が地域暮らしに直接活かせる経験がたくさんできました。ありがとうございました。



☆青おに 奥山和紀さん

ちゅうぶに来て1年が経とうとしています。この1年を振り返ろうとして思い出したのは、入職してすぐ、ミニアクセスでメンバー8人くらいと出かけたときに8台の車いすが街中を走る光景でした。今となっては私の中では当たり前の光景になりましたが、社会全体でもそれが見慣れた日常になるように動きたいと思いました。

来年はもっと作業所の企画にかかわったり、自主企画を立てていきたいです。



☆赤おに 杉本結花さん

今年はちゅうぶに入職して色々な経験をさせていただいた年でした。

障害者と関わること自体がほぼ初めてだったのですが、メンバーさんと様々な所に行って楽しんで全力で笑って時には悩んで自分自身の考え方、価値観もガラッと変わったように感じます。

入職してまだ8ヶ月ですが楽しかったこと印象に残ったことが沢山あります(笑)

来年はもっとメンバーさん目線で寄り添った介護が出来るように頑張りつつ、今年以上に楽しんで仕事していきたいです!



2026年の赤おに・青おにも、どうぞよろしくお願ひいたします!!



1年に1度のリオからのお便り

はいけい
拝啓

皆さま、とても寒い日が続きますが、いかがお過ごしですか？

2025年度は、色々なプロジェクトが大きく進んだ年度でした。2024年に体験入居を進めていた島袋 愛子さんが2025年に予定通り入居され（昨年度の期間ですが）、4月には介護派遣部門より山出 理さんがリオスタッフになりました。建物関係では、A風呂・B風呂工事プロジェクトが立ち上がり、B風呂はリニューアルがおわり、A風呂は2026年の1月中頃にリニューアルする予定です。建物の様々な箇所で修繕が必要だとわかり、建物のオーナーである光源寺の住職さんと建築士と話を進めている所です。

体験入居の方も順調に進めており、現在2名の方が入居を目指しております。おひと方は、来年の1月末の入居を目指しておられます。入居者も恒例の旅行に行かれた方もいらっしゃいますし、初めて1人で旅行（介護者付き）に行かれた方もおられました。また、精力的に法人内外の講演会に講師として登壇された方もいらっしゃいます。スタッフも、今年度から日本グループホーム学会の全国大会に足を運び、大阪を飛び出した繋がりづくりにも力を入れ始めました。来年度も引き続き、各入居者の方が自分らしい生活が送れるよう、お手伝いさせていただく所存です。それと並行してスタッフのレベルアップにも力を入れていきたいなと思っております。

少しばかりですが、今年度の出来事をピックアップした写真を載せております。残り少ない今年度も来年度もどうぞよろしくお願ひします。（2025年12月）

はいぐ
敬具





しまがくみ
島袋さん入居
にゅうしきよ



ナビ 2025年振り返りと新年の抱負



(小坪 琢平)

2025年を振り返ると、計画相談で関わっているAさんが1月に入所施設からの地域移行でグループホームリオに入居され念願だった地域生活を実現されました。

その他にも複数の施設から「大阪市施設入所者地域生活移行促進事業」の利用希望があり、体験外出の取り組みを進めてきました。この事業を活用し、外出した際に(写真を見て食事を選ぶ、セルフレジでヘルパーと一緒に支払うなど)施設生活では経験できないことをたくさん体験し、経験の幅を広げることができました。自分が関わった障害者が、経験を取り戻してエンパワーメントしていく場面に立ち会えるのはすごく嬉しいです。2026年は、障害者の地域生活に向けた自立支援、ILPの取り組みに一層力を入れたいとおもいます。

(平沼 遊)

現代社会では、複雑に巧妙に変な意味を持たされた何かを強烈に信じてしまうことがよくあるようです。それが人生を彩る趣味や生きがい、樂しみになる場合もあれば、詐欺被害、靈感商法、陰謀論のような人生を破壊されるものになる場合もあります。このような認知の特性を「プロジェクト」といい、人間にもともと備わっているものだそうです。自分自身が変なものに囚われていないか、常にチェックしつつ、それでも直感を大切に今年もしっかりと物事を見極め、関わる人たちの人生を少しでも豊かにするべく、相談支援の活動を続けていきたいと思います！

(辻谷 悠生)

今年度の7月より生活介護赤おにからナビへ異動した辻谷です。2024年度に育休を1年間取得。4月より職場復帰し、7月に異動しました。1年間の育休からの職場復帰に加えて今までの業務内容とは大きく異なる相談支援の仕事。さらに基幹相談支援センターなる仕事もあります。異動を伝えられてからの数週間はどんよりとした気分が続きました。しかし、異動直前ともなるとどんどん意欲的になり未知なるものへの挑戦するぞ、という気持ちが強くなっています。

ナビでの仕事では、まだまだ実力不足を痛感中です。電話対応もおぼつかず制度についても分からず…。相談支援従事者初任者研修もいきなり受講となり課題に追われながら、家では1歳と3歳の息子と戯れながらわちゃわちゃな日々を送っています。

まだまだレベル上げ中の辻谷なので、みなさま温かく見守っていただけたらと思います。



いつもここから。すてっぷ2026年

かな
悲しいとき～！

入院時、ヘルパー派遣を病院に断られたとき～！

かな
悲しいとき～！

電車に乗ろうとしたら、駅員さんに次の電車まで待ってくださいといわれて
目の前の電車をみおくったとき～！

かな
悲しいとき～！

介護保険に切り替わった瞬間、制約が多いと気づいたとき～！

生活介護の作業所をやめて「デイサービスにいってください」といわれたとき～！

かな
悲しいとき～！

介護開始10分前「今日の介護休みます」と派遣予定のヘルパーさんから連絡あったとき～！

休みだと思っているヘルパーさんにあわてて介護を頼まないといけなくなったとき～！

かな
悲しいとき～！

いつも使ってる尿取りパットが全部売り切れてたとき～！

3件店をまわってもなかったとき～！

かな
悲しいとき～！

重度訪問介護の講座の申し込み人数が、ぜんぜん集まらなかつたとき～！

かな
悲しいとき～！

自動販売機が新札に対応してないのに、お財布に新札しかはいってなかつたとき～！

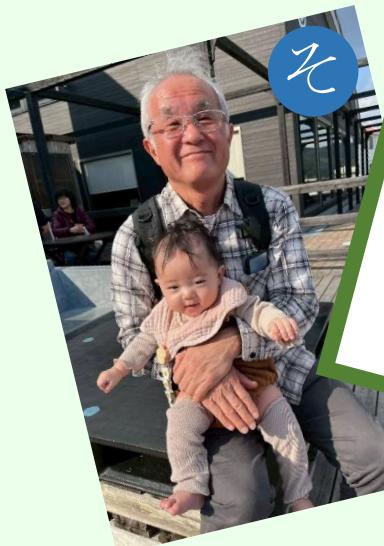
ことし
今年はそんな「悲しい時～！」を一つでも減らし、皆様と一緒に
「嬉しい時～！」と笑い合える社会になっていきますように。
利用者の皆様、ヘルパーの皆様、障害福祉に関わる皆様にとって、
幸多き一年となりますようお祈り申し上げます。

文責：本庄・畠村



そうむぶ 総務部

にせんにじゅうろくねん しんねん あいさつ
二〇二六年 新年のご挨拶



そ



最後には晴れる！
田 いし だ

そ

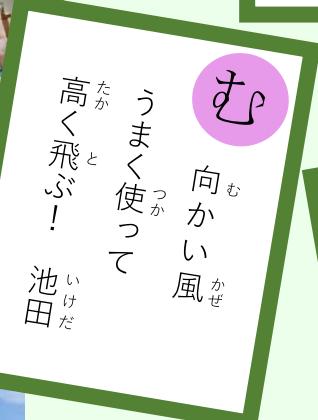


う 年に
笑顔かがやく
としおんな： 安 東
あんどう

う



む



む 向かい風
うまく使つて
高く飛ぶ！
池田 いけ だ

む

二〇二六
二〇二五
ブレンダしていきたい
分業しまくつた
吉田 よしだ



ふ



二〇
二六



二〇二六
認知度N.O.
三七歳脳年齢三十歳
はより安心して相談される総務部に！
ちゆうぶとして福祉業界なかの
1を目指す！
中野 なかの

そうむぶいちどう
総務部一同

ほんねん ねが
本年もよろしくお願ひいたします！



オールラウンド交渉 みんなで頑張った！ おおさかし わたし こえ き 大阪市は私たちの声を聴いてください

12月15日(月)、16日(火)の両日、障大連主催で大阪市とのオールラウンド交渉が開催されました。

会場から障害者や支援者の切実な声が多く挙がり、とても熱心な話し合いが行われました。

特に、ちゅうぶが発言した部分や、筆者にとって印象深い点を中心に報告します。(文責:ナビ 堀)



（1日目）

権利の実現【住宅の入居差別】

物件を探していると、生保の理由、精神の場合、診断名など根掘り葉掘り聞かれる。

不動産屋さんは、障害を隠してあとでトラブルになってはいけないからと言ふが、偏見に

満ちている。不動産業界、保証会社へも、差別禁止を周知徹底してください。（金）



入居時の差別解消についての発言を受けて大阪市から「障害という理由で拒否はあってはならない。どう啓発すれば伝わるか検討する」「市居住支援協議会の設置に向けて検討している」と回答がありました。障大連からさらに福祉現場との連携を求め、大阪市から「顔の見える関係づくりに努める」と答弁がありました。

権利の実現【旧優生保護法問題】

被害者へ謝罪と補償を届けるには、積極的なアウトリーチ型の周知が必要。兵庫県の

医療機関や施設への先進的な調査の取り組みなどを参考に取り組み、被害者がいると思われる病院・施設職員の協力を積極的に呼びかけてほしい。（松倉）



国を挙げて優生思想が認められた。無かつたことにしてはならない。一人でも多くの

被害者に謝罪と補償を届けるために粘り強く取り組んでほしい。（堀）

ちゅうぶからの発言の他に、夢宙センターの内村さんから、「サービスの更新、介護保険の決定通知などの時に周知をしてほしい。精神科病院の協会、自立支援協議会、民生委員児童委員協議会にも周知の協力を依頼してほしい。」と発言がありました。大阪市からは、「相談件数197件で少ないことは重く受け止め172医療機関に調査を実施し、54機関の回答があつたが、啓発を実施した11件、今後予定9件、未実施（予定がない）35件と、認識は低い。施設への調査は令和4年以降できていない。粘り強さが大事と受け止めた。効果的なアンケートなどに今後も取り組んでいきたい」と回答がありました。

こうつう 交通アクセス 【バリアフリー基本構想の課題】

すいしんきょうぎかい 推進協議会において整理した課題について継続検討を行なうとなっている。むじんえき 増えて券売機の使いにくさやインターの問題は重要課題。梅田の案内表示では、バリアフリールートがわからない。早急に検討を開始してほしい。(山下)



こうつう 障大連から継続協議事項の検討をいつ開始するのかと迫り、大阪市からは、次回の推進協議会に検討に向けての案を示すと回答がありました。

こうつう 交通アクセス 【安全な駅の利用、鉄道連絡ビルのB F化】

しゃりょう すきま だんしゃかいじょう ホームと車両の隙間と段差解消、ホーム柵の設置などについて、鉄道各社に早く改善を求めてください。駅の更新工事が円滑にできるように、エレベーターの増設、複数ルートの確保を早期に実現するようお願いします。(西川)



市からは、メトロについて、谷町線は年度内にホーム柵設置を終了、その後、ホームと車両の隙間と段差の改修を行うと回答がありました。障大連からは、鉄道連絡ビルのB F化について、淀屋橋で新築のステーションワンビルへの案内表示がない問題を取り上げ、今後、協定を結ぶなどの手法でBF化を進めるように追求しました。市からは、事業者にみなさんの声を伝えていくという回答に留りました。

こうつう 交通アクセス 【オンデマンドバス】

とうろく たいへん オンデマンドバス、アプリの登録が大変だった。車椅子と申し出て手続きをすると「配車可能なバスがありません」となり、電話で申し込んだが、目的の付近に車椅子で利用できるバス停がなく、14時台に探しているのに、17時しかないと言われ、利用できなかった。(森園の代読 杉本結花)



かくしきがいしゃ 視覚障害者はバス停がわからない、自分で予約ができない。車椅子は重量制限、サイズ制限があり、電動車椅子はほとんど乗れない。車椅子で利用できるコースがほとんどない。シティバスの無料乗車証が使えない。新たな社会的障壁が作られている。私たちの声を聞く場を作つて。(堀)

市からは、オンデマンドバスは、バスの廃止を前提にするだけでなく、区内をより細やかに移動できる手段としての社会実験である。今年度中に全区で実験を行い、今後も障害者も含め使いやすいよう改善を図っていく、道路事情によりリフトアップ車で乗降できない事情があり、停留所が限られる点も課題として認識している。障害者の声を聞く場についても検討していくと回答がありました。

こうつう 交通アクセス 【再開発における当事者参画】

かいじょう 会場から、「基本構想のときには課題が多かったので大規模開発の時に検討します」という回答が多かった、京橋地区ではコムズガーデンの再開発でも当事者参画が不十分だった。今後どう当事者参画を図っていくのか」という発言があり、障大連から、「今後予定されている新大阪、京橋などのプロジェクトもあり当事者参画を図ってほしい、基本構想で残った課題を継続して協議する場を作つてほしい」と追及しました。市からは、「基本構想についてはまず25地区全部をやり切つてから今後については検討する。推進協議会はやり続ける」と回答がありました。

こうつう 交通アクセス 【長居スポーツセンター建て替え問題】

しょうだいれん 障大連から、国交省の当事者参画のガイドランも踏まえ、当事者参画のワークショップを開くなどしてほし

いと要求しました。市からは、これまでもスポーツセンター公認クラブに意見を聞いてきたが、今後、当事者参画ガイドラインも踏まえ、当事者参画をどうしていくのか検討すると回答がありました。

交通アクセス【shikAIの導入】

会場から、shikAIは視覚障害者が使いやすい。駅構内、乗り換え経路、主要施設案内などで使えるようにしてほしいという声がありました。障大連からも万博での実験を日常で実践してほしいと訴えました。大阪市は、梅田基本構想では関連事業に位置付けた。shikAI、ナビレンズ、コード化点字ブロックなど、情報収集と課題の整理を行なう検討している。段階を踏んで進めていくと回答がありました。

教育

就学にあたっての本人・保護者希望の尊重、共に学ぶことができる合理的配慮について、大阪市に基本的な考え方を質しました。

18歳人口の中から特別支援学校を卒業した障害者が除外されていた。障害者は対象ではない、除外してもいいという考え方がある根底にあったのではないか。一般的の高校や大学に進学したい本人や保護者がいたら、丁寧に寄り添ってほしい。(東)



(2日目)

施策全般【就労系の悪質事業者問題】

就労継続A型の加算の過大請求、B型の不適切な在宅利用など悪質な事業所問題によって福祉がゆがめられている問題について、法令の見直しも含め国に要望するなど抜本的な対策を求めました。市からは、加算の請求実態を調査し、抜け道をふさぐように国に要望。在宅利用の実態も府で調査中で、在宅利用のルールを府で定めるように要望していると回答がありました。障大連からは、書類チェックだけでなく現場調査をしてほしい、安易に総量規制するのではなく、地域で生きる障害者に寄り添って頑張っている良質な事業所を守ってほしいと訴えました。

介護【障害者の入院時のヘルパー利用】

脳性麻痺で聴覚障害もある方が、10日間入院したとき、手話でのコミュニケーションが必要という理由で介助を付けることができたが、個室が条件となり差額ベッド代の負担が大きな課題となった。また、市は病院が手話や筆談をすれば介助はいらないのではないかという見解も示しており、言語障害がある障害者の双方のコミュニケーションの必要性への理解が足りないのでないか。(小坪)



入院時にヘルパーが付けられなかったときは、ナースコールも押せず、大声で訴えると感情失禁と扱われ、身体も心もボロボロになった。差額ベッド代があれば、利用できない。(西川)

障大連から、「府の医療機関向けの啓発チラシでも『合理的配慮が必要である、差額ベッド代が生じないよう配慮する』と記載されている。どう判断するのか」と質しました。市保健所からは「医療安全相談室を設けたので苦情は病院へ伝えるが、判断するのは病院である」と見解が示されました。市(障がい支援課)からは、「医師会へは周知している。必要性を病院へしっかりと伝えていきたい」という回答に留まりました。さらに障大連からは、差別解消と医療を受ける権利の問題でないのか、障害者の命がかかっていると厳しく追及し、大阪市は、「府の障がい福祉室地域生活支援課とも連携し進めていきたい」としました。

介護【大学修学支援事業】

2年前まで大学修学支援事業を利用していたが、高校時代にこの事業を知る機会がほとんどなかったのが大きな問題。制度周知をしっかりしてほしい。授業の時間割の公表も直前で、事業所の負担が大きいわりに報酬が低すぎて引き受けた事業者が見つからない。ヘルパーが毎日替わることに対応した学生定期の割引制度がないので、通常4万円のところ10万円必要という苦しい状態。交通費の支援をお願いしたい。(杉原)



大阪市からは、「来年度からは僅かであるが単価アップを目指したい。16歳のサービス更新時に、通知の裏面に制度案内を掲載する予定。自立支援協議会を通じて保護者向けチラシを配布するよう準備している。」と回答がありました。

介護【移動支援】

移動支援は、社会生活上必要不可欠な外出や余暇活動等の社会参加のためのサービスであるが、単価が安いので事業所が見つからない。毎日B型や就労にがんばって通って、土日に移動支援を利用したいと思っても、事業所が見つからない。(西川)



大阪市からは、「他市町村の単価設定状況を踏まえ、大阪市にふさわしい単価設定・加算の設定を検討する。法定給付で対応可能な場合には移行を進める。年間での時間数の繰越も含めて検討する。不正利用を抑制する形で財源を捻出することで改善を図りたい。」と回答がありました。

グループホーム【質の向上】

障大連からは、「恵の問題もあり国のガイドライン作成、今年度からの地域連携推進会議の義務付けなどがあるが、この対応では悪質事業者が是正できるとは考えられない。数が多いだけで、知的や発達障害などの軽度者を対象にしたG Hがほとんどで、支援も不十分である。冷凍食品、異性介護、虐待などの実態も多い。」などと追及しました。市からは、「質の確保は重要。強度行動障害の方も受け入れられるような基盤の確保が大事であり、夜間支援員の資格の問題などガイドラインに取り上げるよう国に要望している。指導、研修に力を入れる」と回答がありました。さらに障大連から、「食事や入浴の必要な支援についてはガイドラインにしっかり書いてほしい」と求めました。市からは、「質の向上を図るために知恵を貸してほしい」と協力の呼びかけがありました。

グループホーム【地域連携推進会議】

障大連からは、「G Hに対してコンフリクトがあった経過もある。自治会と必ずしもうまくいっているG Hばかりでない。また、住まいなのに、自分の大事な空間に見学者が来るという負担が義務付けされるのはおかしいのではないか。」と問題提起をしました。市からは「通常の住まいではありえないことの義務付けの課題はあるが、質の確保、虐待の早期発見の目的がある。法的に義務化なので、お願いしたい」と見解は示されました。障大連からは「可能な限りやるが、全部は難しい場合もある。柔軟な対応、運用をお願いしたい。」と要望しました。



グループホーム【個別ヘルパー問題、利用者負担減額がない問題】

個別ヘルパーを恒久化してください。外食とかしたいです。(松島)

個別ヘルパーがなくなって今の生活ができなくなると思うと不安です。(島袋)

個別ヘルパーがないと、買い物、外出したりできなくなる。旅行に行きたい(蓬坂)

勝手に決めないでください。(山野)

グループホームの場合は課税対象者に関しては一律37,200円の自己負担と、それに加えて家賃補助10,000円もないで、実質47,200円の負担となっています。負担軽減の仕組みづくりを国に要望してください。(小八重)



市からは、「G H は住居であるので、在宅と同じにすべきと考えている。個別ヘルパーの恒久化については、移動支援を住まい利用するのと同じであるべき。年限付きでなく、サービスが継続するように国に求めていきたい。」と回答がありました。

地域移行の取り組みの推進【施設入所者地域生活移行促進事業】

複数の施設から「大阪市施設入所者地域生活移行促進事業」(体験外出)の利用希望があり取り組んだが課題がある。施設職員や本人だけでなく、親にどう理解を広げるかという課題や、終了後に、継続して、外出取り組みを行いたいと思ったとき、施設入所している知的障害者は移動支援の制度が利用できないという課題がある(小坪)



障大連からは、大阪府は「通過型・循環型」に転換しようとしている、来年度からは各施設で地域移行等意向確認担当者の設置が始まる。施設の職員が障害者の地域での生活を知り、取組ができるようになってほしいと、地域移行について市の検討の進捗を質しましたが、市からは、「まずは、地域での基盤強化、地域生活拠点を増やすことをやっていきたい。移行促進事業の活用を図っていく。アセスメント事業、意向確認担当者の設置はこれから検討になる。」と回答がありました。

さらに、市から「府は通過型・循環型と言っているが、市では施設は担うべき役割・強みを生かしていく」との見解が示され、障大連からは「施設は医学モデルでその強みは地域生活には役立たない、施設は24時間安心の支援があるという強みの強調は困る」と異論を表明しました。市からは、「施設を地域支援の資源として何ができるのか検討したい」と回答がありました。障大連からは「障害者の地域生活の保障という視点を大事にしてほしい」とくぎをさしました。

地域【相談支援の基盤の強化】

障大連から、障害福祉の利用者の増に、相談支援事業所の数が追いついていない。半分がセルフ計画になっていると指摘し、一人事業所への支援や報酬アップ、加算手続きの簡易化などの支援を求めました。大阪市からは、「相談支援事業所が増えない課題は認識している。報酬アップの要望については、引き続き取り組む」と回答がありました。

地域【地域生活支援拠点事業 緊急時支援】

母子で暮らしているケースで母が深夜に救急搬送になって緊急に対応が必要となったが、利用しているショートはすべて断られ、緊急一時保護の相談もした。しかし、まずは拠点登録しているショートがダメである確認を取つてからでないと受け入れられないと言われた。緊急時に大変な作業で間に合わない。現在の拠点の登録制度だけでは、緊急時に機能しない、スキームの見直しをしてほしい。(平沼)



大阪市からは、「個別給付ができない時に限つて緊急一時保護という位置づけになっている。障害の施設で緊急一時保護施設が設定できていない課題も認識している。」と説明がありました。



きょうしつ とも い しゃかい 教室からはじまる「共に生きる社会」 じる とうだん ～JILセミナー2025に登壇して～

あづま よしみ
ナビ 東 佳実

みなさんこんにちは。ナビの東です。今回私は2025年12月16日に開催された「JILセミナー2025」において、JILインクルーシブ教育プロジェクトの一コマである「教室からはじまる共に生きる社会～障害当事者が伝えるヒント～」に登壇する機会をいただきました。

今回のセミナーでは、私が今年6月から参加している、一般社団法人UNIVAのインクルーシブ教育の取り組みの一環として、箕面市立萱野小学校で子どもたちと関わってきた実践の報告を行いました。障害のある当事者として学校現場に関わり、子どもたちと一緒に過ごす中で見えてきたこと、感じたことを共有する時間となりました。

箕面萱野小学校での取り組み

UNIVAのプロジェクトでは、「今の学校に子どもを合わせる」のではなく、多様な子どもたちがいることを前提に、学校側をアップデートしていくという考え方を大切にしています。

萱野小学校では、総合的な学習の時間を使い、障害のある人と出会い、一緒に遊び、話し合いながら、「みんなが楽しめるにはどうしたらいいか」を考える授業を重ねてきました。

私は車いすユーザーとして子どもたちの前に立ち、自分の得意なことや苦手なこと、街や学校で感じる困りごとなどを率直に伝えてきました。また、子どもたちが考えた遊びに一緒に参加し、「どうすればみんなが楽しめるか」を一緒に考える役割も担ってきました。



子どもたちとの関わりから感じたこと

こうした関わりの中で、私が強く感じたのは、子どもたちは大人が思っている以上に、物事の本質を理解しているということです。

言葉としてうまく説明できなかったり、語彙が追いついていなかったりする場面は多くありますが、「違があること」「同じルールだと誰かが困ることがある」ということを、子どもたちは感覚的にしっかり受け取っています。そして何より、慣れるのがとても早い。

回を重ねるごとに関係が近づき、「どうしたら一緒にできるかな」「こうしたらやりやすい?」と、子どもたちの方から具体的な声掛けが増えていきました。



一方で、自分の思いをうまく言語化できることで誤解されてしまう子どもも少なくありません。だからこそ大人は、表に出てきた言葉だけを受け取るのではなく、その奥にある気持ちや背景にしっかり耳を傾けることが大切だと、改めて感じました。違いを自然に受け止め、相手を理解しようとする子どもたちの姿から、私たち大人が見習うべきことは本当にたくさんあると感じた実践でした。

この実践をこれからどう生かしていくか

今回の実践を「よい経験だった」で終わらせるのではなく、これからも現場の中で育てていきたいと考えています。

具体的には、作業所のメンバーが取り組んでいる学校交流の場面にも、今回の学びをぜひ生かしてもらいたいと思っています。障害のある当事者が学校に出向き、子どもたちと直接関わることで、「目の前の人と出会う学び」が生まれる。その場に、私自身も一緒に参加しながら、学校での実践を広げていきたいと考えています。

また、UNIVAが公開している「ふつうアップデート」のプログラムを、地域の中でもぜひ活用してほしいと思っています。特別な学校だけでなく、全国のさまざまな学校でこの取り組みが実践され、子どもたちが「違いがあることは当たり前」と感じられる場が広がっていってほしいと願っています。

相談支援の仕事と今回の学び

私は普段、相談支援専門員として、障害のある方やご家族の思いに寄り添いながら支援に関わっています。

今回、子どもたちと向き合う中で強く感じた「言葉にならない思いをくみ取ること」「その人の背景ごと受け止めること」の大切さは、日々の相談支援の現場とも重なります。

目に見える困りごとだけでなく、その奥にある気持ちや願いに耳を傾け、「本人がどう生きたいのか」を一緒に考えること。今回の実践は、私自身の支援の原点を、もう一度思い出させてくれる機会になりました。

おわりに

教室で出会った子どもたちの、まっすぐで柔らかく、あたたかいまなざし。その姿に触れながら、「共に生きる社会」は、もう教室の中から始まっているのだと感じました。

この小さな実践が誰かの気づきにつながり、また次の一步を生み出していく。そんな連鎖を信じて、これからも現場の中で、子どもたちと一緒に考え続けていきたいと思います。

ティーピーアイせいさくしゅうかい さんか

DPI政策集会へ参加しました

ほんき すす

ちいきいこう だつしせつ

テーマ 本気で進めよう！地域移行・脱施設

11月29日(土)、30日(日)東京都立戸山サンライズで開催されたDPI障害者政策討論集会へ、ちゅうぶから小坪、東、森園、松倉、佐々木、齊城、秋山、堀が参加しました。とても濃い内容の集会で、全国の皆さんとも顔合わせができたことも嬉しかったです。堀が印象深く思ったことを中心に報告します。

(文責 堀)



かんこく	とりくみじれい
・韓国における取組事例	にしのみや
・西宮市における取組事例	とりくみじれい
・パネルディスカッション	
「どうしたらできる脱施設」	だつしせつ
国交省居住推進課長 田中さん	こうこうしうきよひうすいんかちょう たなかさん
厚劳省障害福祉課長 大竹さん	おおたけしうわいしきふくしがくちょう おおたけさん
西宮市生活支援部長 松本さん	にしのみやしせいかつしえんぶ ぶちょう まつもとさん
DPI報告 今村さん	デイーピーアイほうこく いまむらさん

●韓国における脱施設政策について (長野大学 相馬大祐さん、DPI 崔栄繁さん)

ヤンジョン自立生活センター所長だったソウル市会議員の取り組みにより、施設から地域での自立生活を支援する「自立生活条例」(2012年)を勝ち取り、その後、「支援住宅条例」(2018年頃)、「脱施設条例」(2022年~24年)を作らせて大きな脱施設、地域移行に大きな動きをつくったという紹介でした。

条例をもとに、「障害者自立生活支援センター」「障害者自立生活住宅」といった制度などを運用し、自立生活につなげる仕組みが確実にできていること知って、衝撃を受けました。条例に自立生活運動の理念もしっかり書き込まれ、地域定着支援、計画に基づいた自立生活支援が行われているそうです。支援住宅は3DKぐらいで、体験室もあり、地域コーディネーターが常駐、知的障害や発達障害の人も自立生活に向けてトレーニングし、アパートでの一人暮らしに移行していくというお話をしました。

制度を条例でしっかりと確立させてはいるので、政権が替わっても揺らがないという話は印象的でし、本当にすごいと思いました。大阪市の政治状況では、なかなか難しいのだろうけど、施設を出て、自立生活に移行するために必要な施策をきちんと条例などの法制度で確立させるということが重要だと言ふことがよくわかりました。韓国では、どういう障害者運動があつたのか、さらに知りたいと思いました。



●西宮の地域移行(メインストリーム協会 木村優子さん)

自治体の現状報告(西宮市生活支援部 松本寛さん)

メインストリーム協会の自立取り組みによって、2003年~25年の間に60人の重度障害者が自立を果たしてきたという話は迫力がありました。地域への自立、地域移行へ向けた取り組みの基本的な流れや地域移行のサポート体制が、確立できているのがすごいと思いました。ちゅうぶとして、ぜひ、メインストリーム協会さんにもっと詳しいお話を伺いに行って、学びたいと思いました。

しかしながら、自治体における財政負担は大きく、その要因の一つとして、国庫負担基準額(国庫補助の

上限)が設けられており、市の自立支援給付の超過分はすべて自治体の持ち出しになっているという苦しい財政状況についての訴えがありました。

がんばっている自治体が苦境に立つ状況をなんとかしなければ、障害者の自立支援は進まないと危機感を感じました。パネルディスカッションやその後の論議の中で、長期入院、長期入所の本来不要であるはずの財源を回すなどをすべきだという話があって、本当に、財政と人材を施設収容から、地域へ移行させていくことが急がれると思いました。

●障害福祉施策の動向について(厚生労働省 障害福祉課長 大竹雄二さん)

厚労省の課長からは、地域移行の目標設定の6%を達成できていないのが現状であり、施設入所者の高齢化、重度化、地域の受け皿不足などもあり、地域移行者数が鈍化しているということでした。しかし、今後まだ、地域移行に向けて頑張っていけるのではないかとお話をいただきました。

施設の在り方検討会では、施設に求められる機能・るべき姿について、①利用者の意思・希望の尊重(どこで誰と暮らしたいか)、②地域移行を支援する機能、③地域生活を支えるセーフティネット機能、④入所者への専門的支援や生活環境の4点に整理したと報告されました。

その上で、施設でのアンケート調査などで見る施設の現状では、「入所者にとって、施設が一番適切であるために地域行が不要」としている施設が、32%もあり、取り組みの余地が大きいことが示されました。そして、施設は通過点であるという視点を踏まえた取り組みの推進が重要であるとして、来年度から、施設での意向調査の義務化(運営基準)がスタートすることをテコに、さらに地域移行を進めていくという力強いお話をいただきました。

●改正住宅セーフティネット法の施行 (国土交通省 安心居住推進課長 田中 規倫さん)

国土交通省の課長からは、高齢者などの入居に大家の拒否感が強く、入居前から入居後にかけて連続した支援ができる仕組みづくりが必要になっていると法改正の狙いの説明があり、居住支援法人の取り組みや居住サポート住宅の制度紹介などをいただきました。そして、田中さんも厚生労働省から国交省に出向されているということで、今後、福祉部門と住宅部門との連携を図っていくというお話をありました。

居住サポート住宅の登録にあたってはバリアフリー要件がない(補助制度はあり)ということで、残念に思いました。車椅子などの障害者が入居できる住宅は公営住宅などに限られています。重度の障害者が地域で生活するための民間も含めた多様な住宅供給を進めてほしいと思いました。

●DPI報告 検討会の状況と今後の取り組み (DPI日本会議事務局次長 今村 登さん)

DPIの今村さんからは、施設の在り方に係る検討会において、DPIとして基本的な考え方(総合支援法の理念、どこで誰と暮らすのか選択の保障、社会的障壁の除去、地域移行を支える通過点であるべき、だれもが地域移行が可能である等)を盛り込ませた、さらに、今後の検討に向けて、施設だけでなく、グループホームや地域の住まいなど居住支援の全体像を議論することが大事と指摘したと、報告をいただきました。

そして、今後の「地域生活支援のあり方検討会」において、取り組むべき視点を広範囲に提起されました。討論では、人口動態、人材確保の地域差問題、財源問題、意思決定支援など広範な議論が展開されました。2日目も「強制入院と長期入院を問う」、「D E I、複合差別問題」と学びの多い内容でした。

だんさせんたい
段差戦隊ジメンジャー &

じりつせいかつ すてっぷ こうりゅう
自立生活センター・STEPえどがわと交流しました！

10月29日(水)段差戦隊ジメンジャー(NPO法人ちゅうぶ)と東京都江戸川区で活動している自立生活センターSTEPえどがわ(以下:STEPえどがわ)のみなさんとzoom交流会を開催したので報告したい。
(今年は、障害者自立生活センター・スクラム(大阪市大正区)に引き続き 2回目の交流会)STEPえどがわのみなさんには、ダンサナクセイバーの活動を中心に紹介してもらった。

バリアフリー戦隊ダンサナクセイバーとは (自立生活センター・STEPえどがわホームページより抜粋)

世の中にはびこる、ありとあらゆる差別を無くし、「誰もが住みやすい街づくり」を目指し研究・活動をしているお茶の瑞江博士が、小さな子供からお年寄りと幅広い人々と共に手を携えてこの、江戸川区瑞江の街からバリアフリーとインクルーシブ(排除しない・分け隔てない)な社会を広めるために創り出したのが、ダンサナクセイバー。

現在、お茶の瑞江博士とナクセイバーは街のあちらこちらにある、迷惑駐輪・店頭入り口ダンサ・道路ダンサなどをはじめとする、無関心による差別エネルギー(バリバリアンのエネルギー源)の発生を阻止すべく、すこしづつ街の皆さんに、理解や関心を深める活動と、障害のある人たちに対する差別を無くしていくことを目指し、国連で決まった「障害者の権利条約」と 2016年4月から施行される「障害者差別解消法」を着実に実行させるための活動を行なっているのである。

だんさせんたい かんそう
段差戦隊ジメンジャーの感想

・地域の小学校で障害者の困りごとや普段の生活の中での差別などを子供たちに考えてもらうきっかけにはなっていて、すごくいい活動だなと思った。

・段差に関して平成の早い段階で段差をなくす整備がされていることを知った。

・車いすユーザー、聴覚障害者、健常者いろいろな立場の人に参加してもらえて良かった。

・STEPえどがわの理事長の今村さんには、これまで、ちゅうぶの研修でお世話になった。ダンサナクセイバーの活動に興味があり、交流をお願いしたが、これからも、STEPえどがわのみなさんと繋がりを持って、一緒に差別をなくしていく活動をしていきたいなと思った。

じりつせいかつ すてっぷ
自立生活センター・STEPえどがわのみなさん



じみち ちょうさ でき
地道な調査が出来ていな
いので、今回、ジメンジャー
の活動の話を聞いて参考
になることが多かったです。

つちや
土屋さん

いまむら
今村さん

なかぞね
中曾根さん

【文責:自立生活センター・ナビ やました
山下】

ちゅうぶのグレープ ホームリオで

たいかい てんぷら大会をしました！ ↓

グループホームリオの入居者島袋の企画として、10月25日にイベントを開催しましたので、ご報告致します。

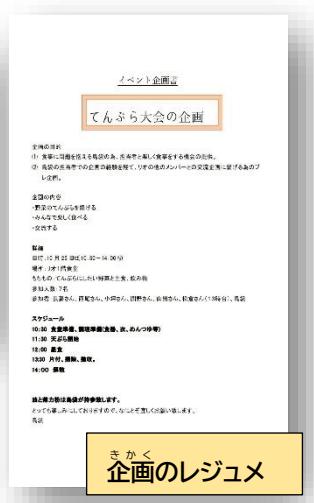
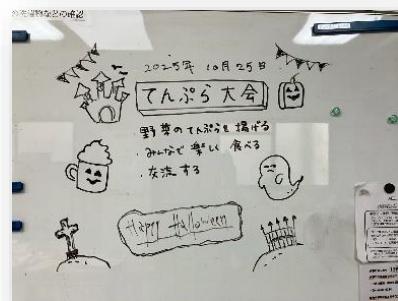
日時: 10月25日(土) 10:30~15:00

場所: グループホームリオ食堂

参加人数: 7名

きっかけは

たんどうしゃかいぎ さい あつ しそくよく げんたいいぎみ
担当者会議の際、暑くて食欲が減退気味と
はな ほり しゃくじきかく い
話すと堀さんが食事企画をしようと言つて
くだ 下さったことがきっかけでした。



もくじき けいかく 目的、計画してみて

計画更新のタイミング以外にも顔を合わせて交流する機会を作る、企画運営の経験を積むという目標を念頭において企画になりました。

また、グループホームの入居者同士で交流したいという想いがあり、プレ企画として、担当スタッフの方々がご協力下さいました。

いそが なか じかん つく くだ
お忙しい中、お時間を作つて下さり、ありがとうございました。



(文書: グループホーム日本長寿
ながつま しまぶくろ
(文書: グループホーム日本長寿
ながつま しまぶくろ)



ねん ぼうねんかい 2025年ちゅうぶ忘年会

お はく
テーマは「推し博！」



かんぱい あいさつ さの
乾杯の挨拶は佐野さん！

12月20日(土)、今年もヨロベースさんをお借りして、忘年会を開催することができました！

今回のテーマは「ちゅうぶ推し博 2025」です。

2025年は大阪万博が開催された年でもあるということから、推し博覧会をしようということになりました！

司会は松島くん、秋山さん、中野弓子さん、松倉の4人でわちゃわちゃとしつつも、開幕！！ 重原和樹さんの作った動画を見ながら2025年を振り返りました！



しんじんしょくいん
新人職員クイズや木戸さん出し物など、

とても楽しかった！

すばらしい忘年会にできてよかったです！



ぜんぶたの
全部楽しかったです。新人クイズが一番面白かった！！



ただいま！



たまき
玉木さんと会うことができてメチャ嬉しくなり涙が出てきた。
たいしょくご
はまだ
退職後の濱田さんの動画は嬉しかった！推し名鑑冊子も良かった！

ちゅうぶの皆さんお久しぶりです

はまだ
濱田さん、ひさしぶり！



いろいろ色々なひとの推しについて知ることができて良かったです。
2025年の動画を観て、しっかり振り返ることができました。
料理もおいしかったです！
A Iを使って作ったラップを観てもらえてよかったです♪



こずえさんの、よさこいがおもしろかった



こずえさんと松倉のソーラン節
精一杯踊りました♪

想像していたより楽しんでくださっていて、良かったです！
準備にあたって、部署が違うのでzoomで会議したのも思い出です！
MCに緊張していましたが、好評で嬉しかったです！
みんな前向きにクイズに参加してくださり、ほっとしました。ありがとうございました！



理事の三井さんが駆けつけてくださったり、玉木さんとの久しぶりの参加がありたり、素敵な時間をありがとうございました！
「皆それぞれの推しについて知ること・話すことができて楽しかった！」「普段かかわりのないスタッフとも話せて良かった！」と聞いています。
忘年会担当としても嬉しい限りです。



2026年も素敵な1年になるよう励んで参ります。
本年もどうぞよろしくお願ひ致します m(_)_m

文責：忘年会担当一同

赤おに・青おに バーベキュー かいさい BBQ レク開催！！

10月31日に約5年ぶりとなるBBQレクを開催しました。当初、大泉緑地で開催の予定でしたが、あいにくの雨だった為、作業所内での開催となりました。

参加者はメンバー、スタッフ合わせて約70人と大規模になりましたが、十分な量の食べ物があり、みんな満腹になったかと思います。

お肉は駒川商店街にある老舗精肉店の森田屋さん、野菜は元ちゅうぶ職員の営む「くるくるふあーむ」さんのオーガニック野菜で準備しました。

お肉は作業所前に設置したBBQコンロで焼き、野菜は各テーブルに用意したホットプレートで焼いてもらいました。

その他にも鉄板で作った焼きそばも振舞いました。



お楽しみのデザート (*^~^)v

デザートにはBBQコンロでマシュマロを焼きました。
メインのBBQの他にもスタッフ特製ナンを使ったナン
食い競争やA.Iで作った合成写真を使った人物当て
クイズ、風船膨らまし対決などなど食後は色々な頭と
体を使うレクを楽しみました。



担当メンバーからの感想として

杉原…「食材を決めたり、買い物へ行ったり、レク内容を考えたり、する事は結構ありましたが、今まであまりなかった経験が出来たので良かったです。雨で通所内での開催になり残念でしたが、それでも楽しめました。来年こそは、屋外での開催にリベンジしたいです。」

K…「今回初めて担当させてもらって、準備や内容を皆で考える大変さもありました。ですが…皆で楽しかったので、良かったです」

今回は雨が降り、作業所での開催になってしまったので来年こそは屋外で開催したいなと思います。



11月のマノスタグラム♥ 秋の学園祭と秋華賞！

manostagram ❤️ ✎

11/3 星光学院フェア



manostagram ❤️ ✎

星光学院 教室



いいね！ 0662125277件

店番中！

#空き缶釣り #鐘鳴らす担当

いいね！ 0662125277件

一致団結

#書道

manostagram ❤️ ✎

ウインズ難波へ



いいね！ 0662125277件

今回も勝っちゃいました

#秋華賞

manostagram ❤️ ✎

勝者はオレッ！！



いいね！ 0662125277件

100円が1000円に！！

#ドキドキ #ひとつ儲け

木戸通雄の部屋



「福岡ソフトバンクホークス日本一優勝」
～そしてその結果 阪神タイガースもよく頑張った～

木戸通雄の部屋



関西と同じ西日本は、九州の福岡ソフトバンクホークスがセ・パ日本シリーズを制し令和7年10月30日木曜日のたしか夜の10時、小久保裕紀監督（54歳）言うことなし！敵地、甲子園球場で就任2年目にして胴上げで9度、宙に舞った。ちゅうぶで一人喜んだのは木戸だけだったのだろうか？長いホークスの歴史で黄金時代がまたよみがえってきた。



令和7年10月30日、阪神は負けると後がない試合、阪神が2回先取点1点を取ったが、5回にも追加で1点、8回からホークスが追い上げ同点に追いつき延長11回の表、やっぱり我らが若鷹軍団は生きていた。

※野村がライトスタンドに放ったソロホームランが決め手となつた。おめでとう九州勢、そして若鷹軍団、そしてホークスを愛する全国のファンとプロ野球ファンの読者の皆さま。（ここにお断りしておきます。12月・1月ちゅうぶ通信合併号に、イヤ実は11月号に我らがちゅうぶ猛虎会が愛する阪神タイガースの記事を書きたかったんですが、書く事ができませんでした。関西の阪神ファンの皆様、読者の皆様すみません。野球は勝負の世界、そして筋書きのないドラマ。大阪の街は阪神タイガースが日本一にならず盛り上がりなかつた。阪神ファンの皆様にも「良くタイガースの選手たちも頑張った。」と思って欲しい。結果はともかく、ホークスを嫌いになつてもタイガースに歯がゆい思いをしても、プロ野球が好きである限りファンはファンで居続けましょう。そして両チームの選手に気持ちだけでも拍手を送つてあげましょう。）5年ぶりの日本一！大阪南海ホークス時代は日本一が2回、通算12回。平成11年以降、今まで10回優勝している。昭和34年11月、カールトン半田がエース杉浦の頭にビールをかけたのがビールかけの始まりだった。昭和63年10月15日、木戸が25歳のころ、まだ陸上自衛隊をやめて職に就いていなかつたころ、



その日忘れもしない、バッファローズとの最終戦、木戸はなんば球場スタンドで大声で泣き叫んだ。「グッバイ！ホークス！！シユーアゲイン、ス、ギ、ウ、ラ。」その木戸の一聲は当時スポーツニュースとしてもテレビニュースで取り上げられた。そして「杉浦、聞こえたら手を振ってくれ！！」と叫ぶと、杉浦が振り返り木戸に手を振ってくれたというドラマがあった。

●フォトコーナー



(左上)

9/12、甲子園歴史館にて阪神ナインがくつろぐベンチで指揮を執る木戸

(右上)

これは夢だろう、まさか僕が阪神に指名されるはずがない

(右)

今年がんばった佐藤輝明選手、不動の4番バッター

(左下)

58歳の時、島根の出雲大社で見たしめ縄がなぜ梅田に？と驚いたあ！ (KITTEにて)

(右下)

関西万博のチケットは取れなかったけどミヤクミヤクに会えた！



行くへび年から来るうま年へ、タイガーズも立石選手を獲得、サラブレッドのように駆け抜け
て3度目の日本一を目指せ！！

(文責:木戸)

きょうりょくかいひ

きょうりょくしゃめいほ

協力会費・カンパ協力者名簿

佐野 欣満 さん

(東京都)

とうなん 東南フォーラム さん

(平野区)

がつ にちげんざい
12月 11日現在

ご協力ありがとうございました(担当:安東)

「おせじ料理」



2025年12月～2026年2月スケジュール

12月29日	月	～1月4日(日) 通所冬休み
1月17日	土	やまうらたかおみ しの かい はやかわふく しかいかん かい 山浦孝臣さんを偲ぶ会 13時～17時 @早川福祉会館4階
1月17日	土	1月17日(土) 18日(日) ポムハウス喫茶吸引等(3号研修) @NPOちゅうぶ
2月6日	金	～7日(土) ちゅうぶ防災一泊体験取り組み
2月12日	木	「つばさをひろげて」上映会&トークショー(強度行動障害のある人と共に) 13時～@東大阪文化創造館

●野菜の名前、山口県では「ローマ」。さて何の野菜でしょう？ といえば母もローマと言った。入院中の母の帰省で山口に帰った時に日本で一番小さい長門市青海島の「くじら博物館」に方言コーナーがあった。春菊(きくな)のこと。なんで？ と思ったら、どうやら原産地は地中海沿岸で室町時代に日本に来たらしくその時の名前が残っているらしい。「魚のしごをする」は魚の下ごしらえをする、「やしをする」はいんちきをすること。他にもいろいろあったが、由来を考えるのは面白い。手話も語源を知ると表現も豊かになる気がするが、手話語源辞典はなさそう。話し言葉と別にろう者どうしの言葉としての手話が形作られたはずなので手話の歴史を紐解くのも簡単ではないはず。ちなみに駅は紙の切符を駅員が鉄を入れる仕草からきているが、今はそんな場面はない。そのうち説明しても「切符って何ですか？」という日も近いかも。「若おこし」を知らない大阪の若者もけっこういる。さて、2026年。昨年末は体調壊して入院したり、亡くなったりする障害者も多かった。今年はみんなの健康を祈りたい！ (いしだ)

●10/22～10/24まで利用者と旅行に行かせてもらいました。1日目は竹下通りへ向かい、車椅子で入れる飲食店を探しましたが何処も段差ばかりで中々入れず苦労しました。2日目はディズニーへ行きました。流石は夢の国と言って良いほどたくさんのアトラクションに車椅子の方でも入ることができ、一緒に行った利用者共々大満足でした。3日目の帰の際、電車のホームで40分ほど待たされるという事があり、大阪と東京の交通機関の利便さの違いを感じました。今回一緒に行った利用者は医療的ケアが必要な方で、準備するにあたって業者や病院の協力も必要で大変なことは沢山ありますが、利用者の楽しかった！の一言で達成感を感じ事ができる非常にいい機会でした。医療的ケアが必要な方や施設、病院に入っている方でも旅行に行ける！そんな世の中になって欲しいと思います。(みやしげ)

●最近一人暮らしを始めて一年が経った安澤です。今回はあえてここで皆さんに報告したいことがあります。実はこの度、兼ねてからお付き合いしていた足のケガとおさらば出来ました！ 皆さんにとっては一体何のこっちゃって感じやと思うんですけど、僕、実はちゅうぶに来た頃からずっと左足の親指を怪我していました。僕の足の指が巻き爪で、キツい靴を履いたり長時間歩いて圧がかったせいで、ある時炎症してしまった感じです。入社式で革靴を履いた時とか激痛でした(笑) ある意味スーツを着る仕事じゃなくてよかったです。ただこの仕事もなかなか酷で、外出介護でめっちゃ歩いて痛くなるし、何より嫌だったのは入浴介護の研修の時などでその指を曝け出す事でしたね。それすごい困って、皮膚科に通って根気強く治療していたら最近ようやく落ち着きました。今はもう全く痛くありません。入浴介助中どれだけ足を見られても問題無し！ でもこの経験のおかげか、利用者の皮膚トラブルにとても寄り添てる気がします。薬を塗って治っていくのを見ると嬉しいです。皆さんも皮膚に異変を感じたらすぐ皮膚科に行ってください。あと打ち明けにくい皮膚の悩みがある方には僕が寄り添います！ 笑(やすざわ)

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】
【自立生活センター・ナビ】
〒546-0042 東住吉区 西今川 2-3-8
電話 = 06 (6760) 2671
ファックス = 06 (6760) 2672



【障害者活動センター 赤おに】
〒546-0031 東住吉区 田辺 5-6-10
電話 = 06 (6623) 7300
ファックス = 06 (6657) 5010

【グループホーム・リオ】

〒546-0032 東住吉区 東田辺

2-21-21

でんわ&ファックス

= 06 (6608) 5244

【ヘルプセンター・すてっぷ】

NPO法人ちゅうぶ 2階

電話 = 06 (4703) 3741

ファックス = 06 (6628) 0271

【障害者活動センター 赤おに】

NPO法人ちゅうぶ 1階

電話 = 06 (4703) 3742

ファックス = 06 (4703) 3743

編集：特定非営利活動法人

エヌピーオーほうじん

【NPO法人 ちゅうぶ】

〒546-0031

大阪市東住吉区田辺5-5-20

電話 = 06 (4703) 3740

FAX = 06 (6628) 0271



ホームページ = <https://npochubu.com/>

メールアドレス = chubu@npochubu.com

郵便番号 = 00960-6-313427

電話 = 06 (4703) 3740

通話料 = 1年間2,000円